

学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」
をハードウェアから開発する グループ名： Group1

担当教員名： 三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行

学籍番号 1018167 氏名 宮嶋佑

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0 回(10 点) ・ 1 回(5 点) ・ 2 回(0 点)
週報	8 /10	標準点：7 点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7 点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点： 7 点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点： 7 点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手の課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	9 /10	標準点： 7 点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	16 /20	標準 14 点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準 14 点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	80 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

私は、全ての項目において評価基準をクリアしていると考えたため、標準点または、標準点以上の点数をつけた。標準点よりも高く点数を設定した部分について、はじめに、積極性・協調性では、グループ内の意見を出し合う場面や、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、自ら積極的に問題点や解決策を考案した。また、グループ内のみならず、プロジェクト全体にも、自分の気づいたことや考えたことについて、積極的に意見できたと考えている。次に計画性については、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、期日までにここまで終わらせるなど、途中にいくつかのゴールを設けた。そうすることで、日々の作業量の分散化、効率化を図り、最後になって慌ただしくなってしまうスケジュールにならないよう、調節を行った。最後に、成果については仲間の考えはもちろん、自分の考えも多く反映された発表ができた。また、中間発表終了後に、仲間から「助かった」や、感謝をされたりした。以上の、仲間からの言葉も鑑みて、成果の自己評価点数を基準点よりも高く採点した。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 伊藤 壱：

とても頑張っていたと思います。宮嶋さんの論理的な意見に何度も助けられました。責任感が強く最後まで仕事をやり抜く力を見習いたいと思います。

サイン _____

コメンター氏名 藤内 悠：

話し合いや全体での作業が滞ってしまいそうな時に革新的なアイデアを提示し、参考になりそうな情報や資料を前もって準備する姿勢にはグループ全体として助けられたことが多くありました。

サイン _____

コメンター氏名 木島 拓海：

中間発表ではスライド資料の作成や動画の進行などやってもらいとても助かりました。また、CAD ではベアブリック の腕の様々な角度でどうなっているかを画像で送ってもらいとても参考になりました。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

教員サイン _____ 三上 貞芳

教員サイン _____鈴木昭二_____

教員サイン _____高橋信行_____